

# I L C誘致に関する今後の動きについて

岩手県 I L C推進局事業推進課 特命参事 植野 歩未

## はじめに

県では、関係機関と連携して、国際リニアコライダー（以下「I L C」という）の誘致に取り組んでいます。前回5月号で、岩手県立大学の鈴木学長（東北I L C準備室長）が寄稿されていますが、3月7日の日本政府見解を受け、I L C計画の国内外の今後の動きについて、紹介します。

## 1. 3月7日の日本政府見解について

3月7日に文科省研究振興局より、日本政府として初めてI L C計画について見解が示されました（日本政府見解の内容は、下図参照）。

この見解を受け達増知事は、「3月7日は日本政府がついにI L Cについて正式に、組織的に取り組む出発の日」との所感を述べ、

I L C誘致実現の確かな一歩と受け止めています。

## 2. I L C計画の最新動向

### (1) 海外の動き

日本政府見解で取り上げられているとおり、I L C計画が世界の協力のもとに実現されるためには、2020年からの欧州の素粒子物理の長期計画（欧州素粒子物理戦略）に盛り込まれる必要があります。来年5月の同戦略の策定に向け、現在議論が進められています。

このため、I L C計画において、政府レベルで欧州との議論を深めるため、米国に引き続き、日本政府とフランス、ドイツ両国との国際協議の場がこの7月には設置される見込みです。

さらに、研究者間でも議論が加速しており、

## 国際リニアコライダー（I L C）計画に関する日本政府の見解

2019年3月7日

文部科学省研究振興局

- 日本学術会議の所見を踏まえ、現時点で日本誘致の表明には至らないが、国内の科学コミュニティの理解・支持を得られるかどうかも含め、正式な学術プロセス（日本学術会議が策定するマスタープラン等）で議論することが必要である。
- 国外においても、欧州素粒子物理戦略等における議論の進捗を注視する。
- I L C計画については、日本学術会議の所見で課題等が指摘されている一方、素粒子物理学におけるヒッグス粒子の精密測定に関する一定の学術的意義を有するとともに、I L C計画がもたらす技術的研究の推進や立地地域への効果の可能性に鑑み、文部科学省はI L C計画に関心を持って国際的な意見交換を継続する。



大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構（KEK）がリードし、本年5月17日、日本、アメリカ、ヨーロッパ、アジアの研究者による国際ワーキンググループが設置されました。本年9月頃までに国際分担等を協議し、報告書としてとりまとめる予定で、欧州素粒子物理戦略の議論に反映される見込みです。

(2)国内の動き

国内では、日本政府見解にある国内の科学コミュニティの理解・支持を得るため、日本学術会議が策定するマスタープラン等で議論することとされています。

来年2月に策定される予定のマスタープランの正式名称は「第24期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン（マスタープラン2020）」であり、ILC計画が他の分野の大型研究計画とともに審査され、同プランの中に盛り込まれる必要があります。

同プランは日本学術会議内に置かれる専門の分科会で審査され、審査に当たっては、学術的意義を重要な観点とし、科学的コミュニティの合意や計画の妥当性、社会的価値などが評価の観点となります。本年7月頃に大

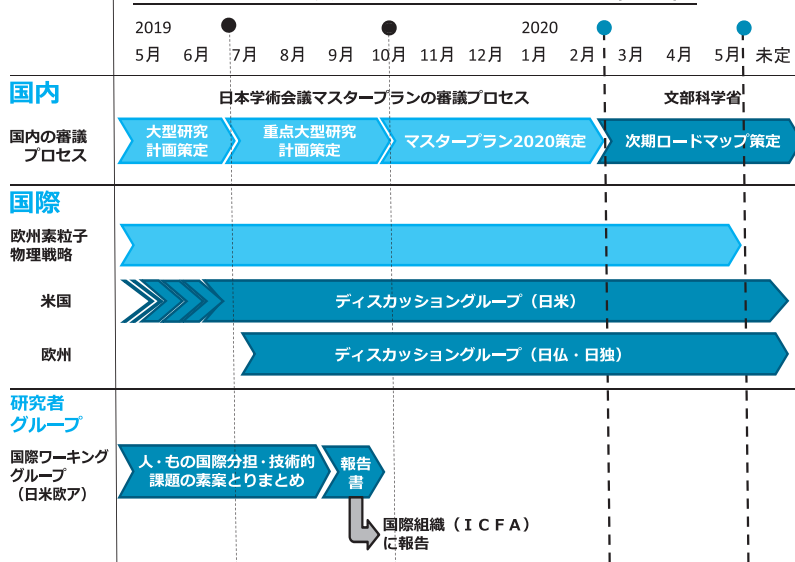
型研究計画が、同10月頃に重点大型研究計画がそれぞれ策定され、それを基にして来年2月にマスタープランが策定される予定です。

【国の動き】

日本政府見解には、ILCの学術的意義を認めているだけでなく「ILC計画がもたらす技術的研究の推進や立地地域への効果の可能性を鑑み」との表現があります。

これはILCがもたらす波及効果が様々な

ILC実現に向けた国内外のスケジュール（想定）



分野に及び、また東日本大震災津波からの創造的な復興、地方創生の新たなモデルになると考えられています。6月に開催されたILCを推進する超党派国会議員連盟の会議にはILCに関係する10省庁の幹部が出席するなど、国を挙げてILCについて検討していく環境が生まれています。これは3月7日の政府関心表明以降の新しい動きです。

おわりに

県では、令和元年度をスタートとする新たな「いわて県民計画（2019～2028）」を策定しました。ILCは11の重点プロジェクトに盛り込まれており、これを具体的に推進するため、今年度、「（仮称）ILCによる地域振興ビジョン」を策定することとしております。現在、ILCが建設されることによる新しいまちづくりや海外研究者子弟の居住環境の整備など、様々な分野の検討を進めております。

本年は、国内外ともにILC計画に関連する重要な議論の進展が予定されており、大きな節目を迎えます。ILC誘致実現に向け、引き続き、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。